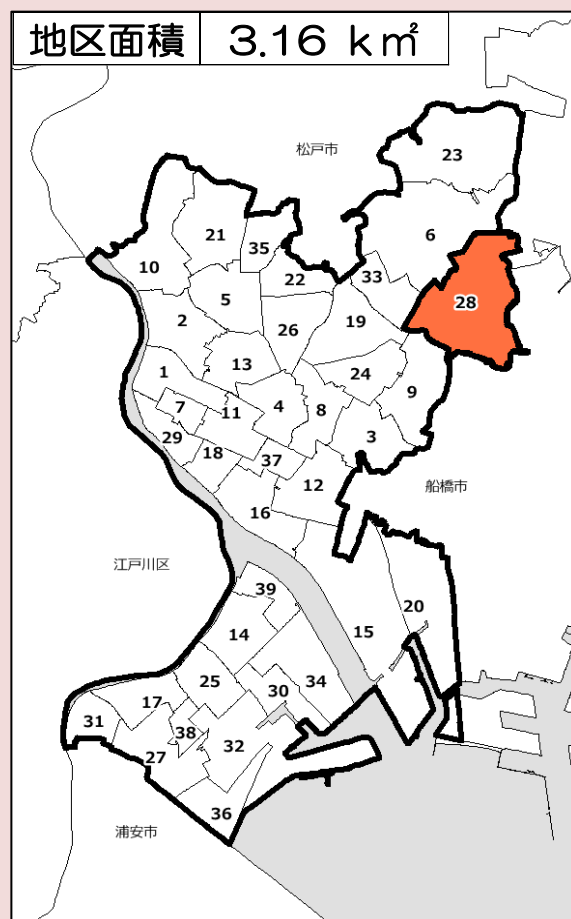


28 柏井小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

柏井小学校区は市の北東部に位置し、地区の西側は大柏川に面しています。また、北東側は鎌ケ谷市、南東側は船橋市に隣接しています。

◆地形・土地利用

地形は、平坦な台地で構成されています。
地区の南側は第一種低層住居専用地域となっており、南側の地域に住宅地が広がり、北側は市街化調整区域となっており農地も多いです。また、農地の面積は市川市で最も大きく、みどり豊かな環境も有しています。

◆都市基盤

地区内の南側の一部は、土地区画整理事業により整備されています。南から北西にかけて県道9号線が通っています。地区内には歴史公園である姥山貝塚公園やJ:COM北市川スポーツパークがあります。
また、地区内には市川市コミュニティバスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

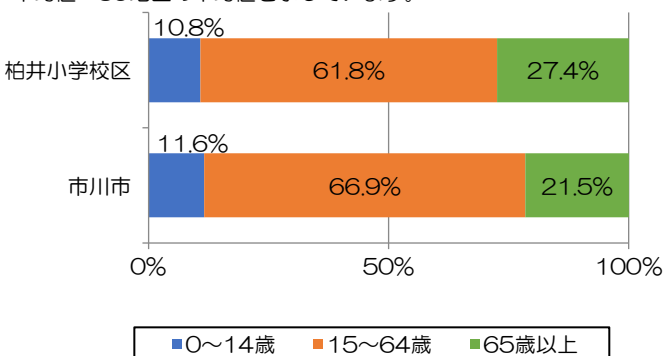
年齢別割合

	柏井小学校区	市川市	割合※
人口総数	10,594人	492,564人	2.2%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	12,630人
-----	---------

平均値：39地区の平均値を示しています。



◆建物

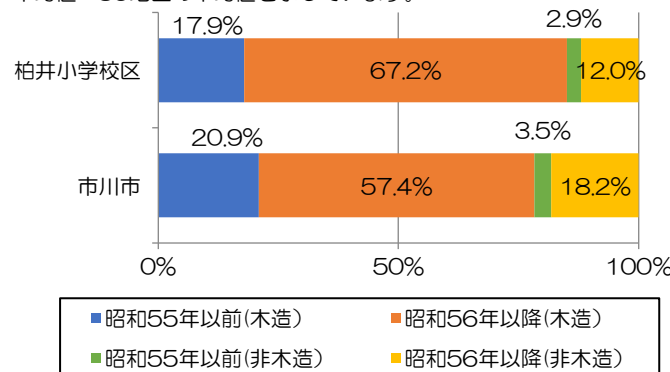
構造別割合

	柏井小学校区	市川市	割合※
建物総数	3,639 棟	107,267 棟	3.4%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	2,750棟
-----	--------

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口より少ないです。市全体と比較すると65歳以上の割合が高く、高齢の世代が多い地区となっています。

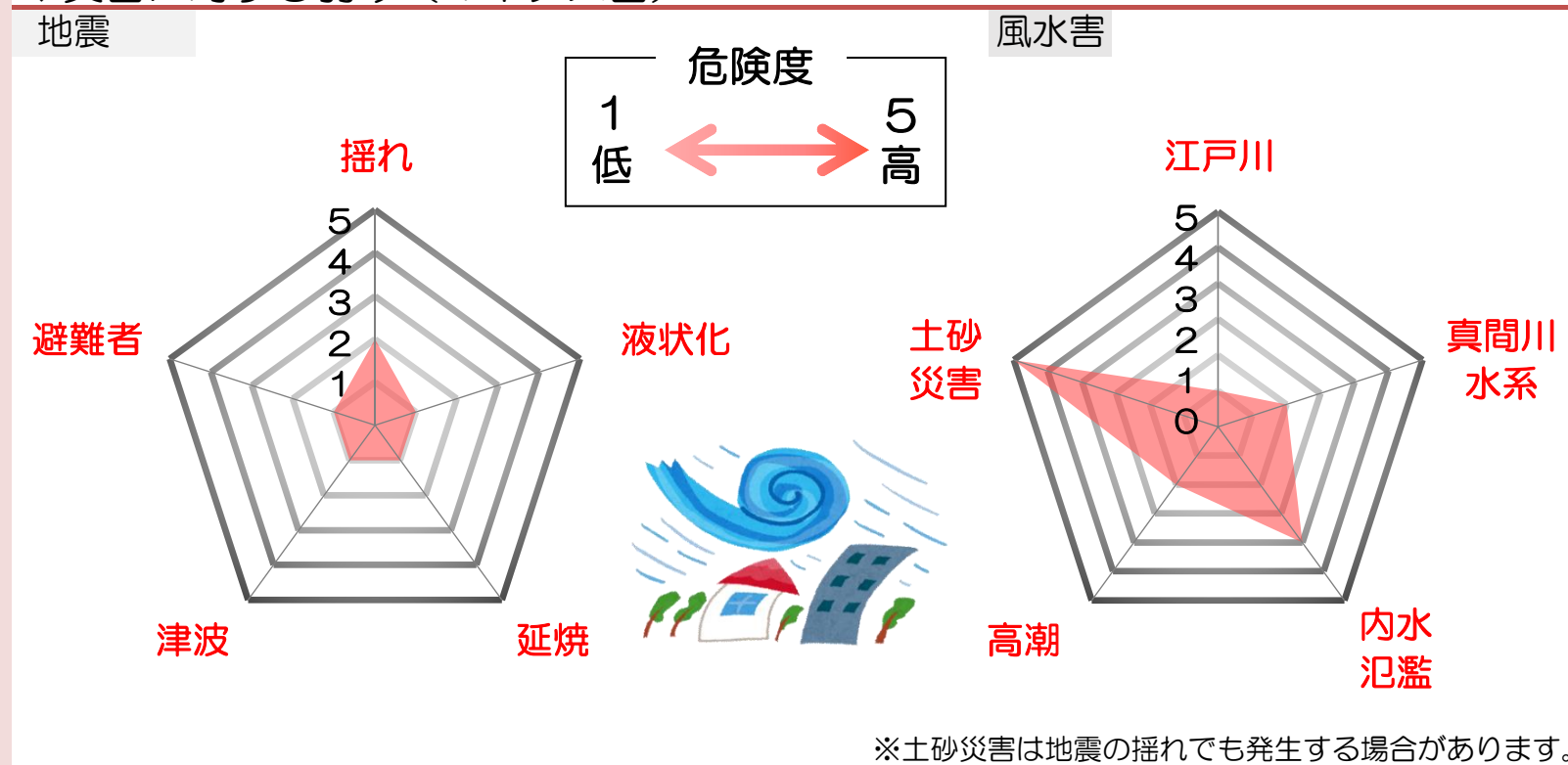
地区の建物は平均より多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや高いです。また、木造建物がやや多い地区となっています。

(4) 災害リスク評価

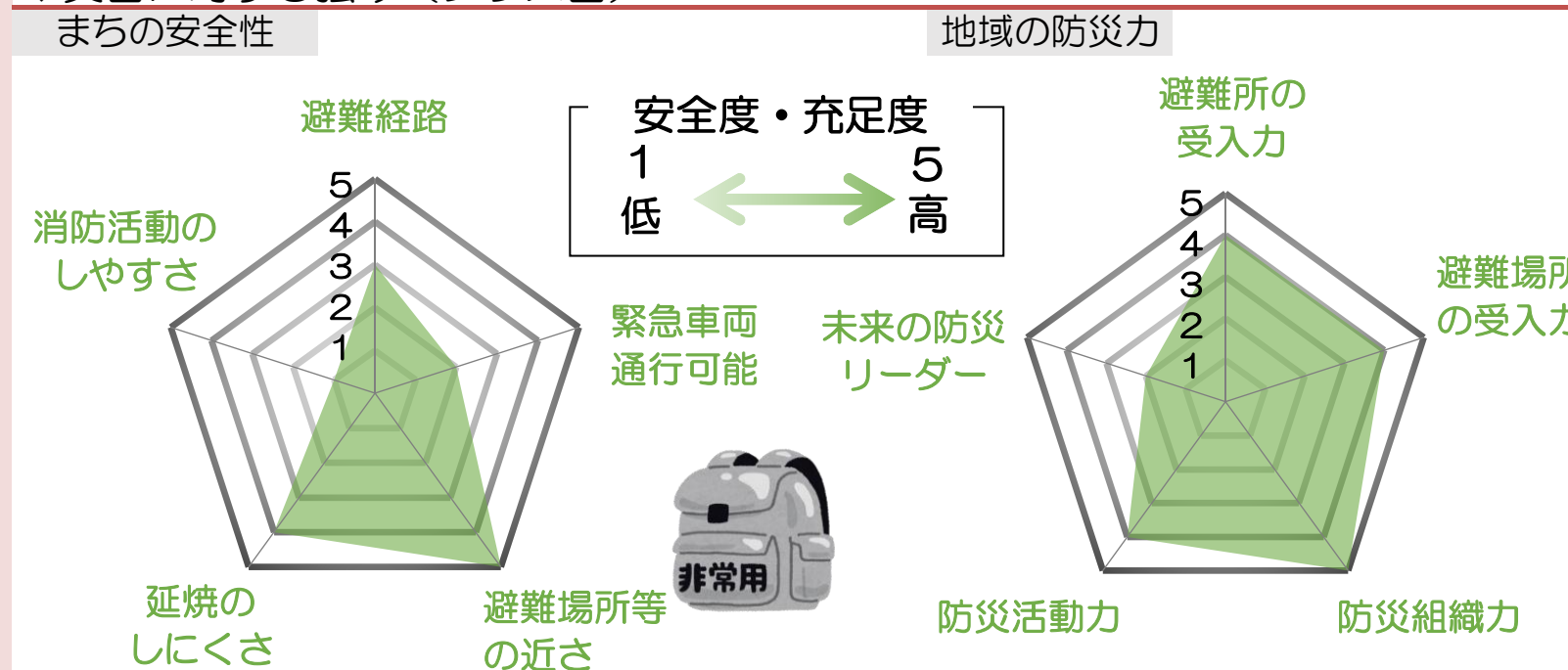
市川市防災カルテ < 柏井小学校区 >

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

柏井小学校区は、地震災害については、最大震度6強の揺れが予測され、揺れによる危険性があります。風水害については、地区内に土砂災害警戒区域等があることから土砂災害による危険性が高い傾向にあり、低い土地では浸水の危険性があります。
一方で、まちの安全性については、避難場所等の近さ、延焼のしにくさは高い傾向にあるものの、緊急車両通行可能道路の充足度、消防活動のしやすさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難所の受入力、避難場所の受入力、防災組織力、防災活動力は高い傾向にあるものの、未来の防災リーダーは低い傾向にあります。

（５）防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
柏井小学校	-	やまぶき園	○
柏井公民館	-	ハートケア市川	○
J:COM北市川スポーツパーク	-	らいおんハート	○
保健医療福祉センター	○	かしわい苑	○
清山荘	○	咲楽苑	○
ナーシングホーム市川	○	いちかわ翔裕園	○
市川ヒルズ	○		
レガーレ市川	○		

◆避難場所

名称
柏井小学校
柏井公民館
姥山貝塚公園

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮 者利用 施設 (公設)	柏井こども館		医療救護所	なし
			関連施設	柏井交番



（６）被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

想定項目		柏井小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	1.7%	4.8%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	6.0%	11.8%
	焼失棟数の割合	0.5%	10.2%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.1%	0.4%
	避難者の割合	5.0%	20.0%



◆風水害（被害を受ける割合）

想定項目		柏井小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	0.0%	52.9%
	浸水棟数（真間川）の割合	10.6%	47.7%
	浸水棟数（内水）の割合	43.4%	57.9%
	浸水棟数（高潮）の割合	0.8%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震被害については、新耐震基準の建物割合がやや高く、地形が台地で揺れが他地区より低いことから、建物被害は少ない傾向となっています。また、人的被害についても、市全体より少なくなっています。

一方で、風水害については、近くを大柏川が流れることから、低地部では真間川水系の氾濫の影響を受け、内水氾濫による影響も受けるものの、地形が台地であることもあり、市全体と比較して浸水棟数は少なくなっています。

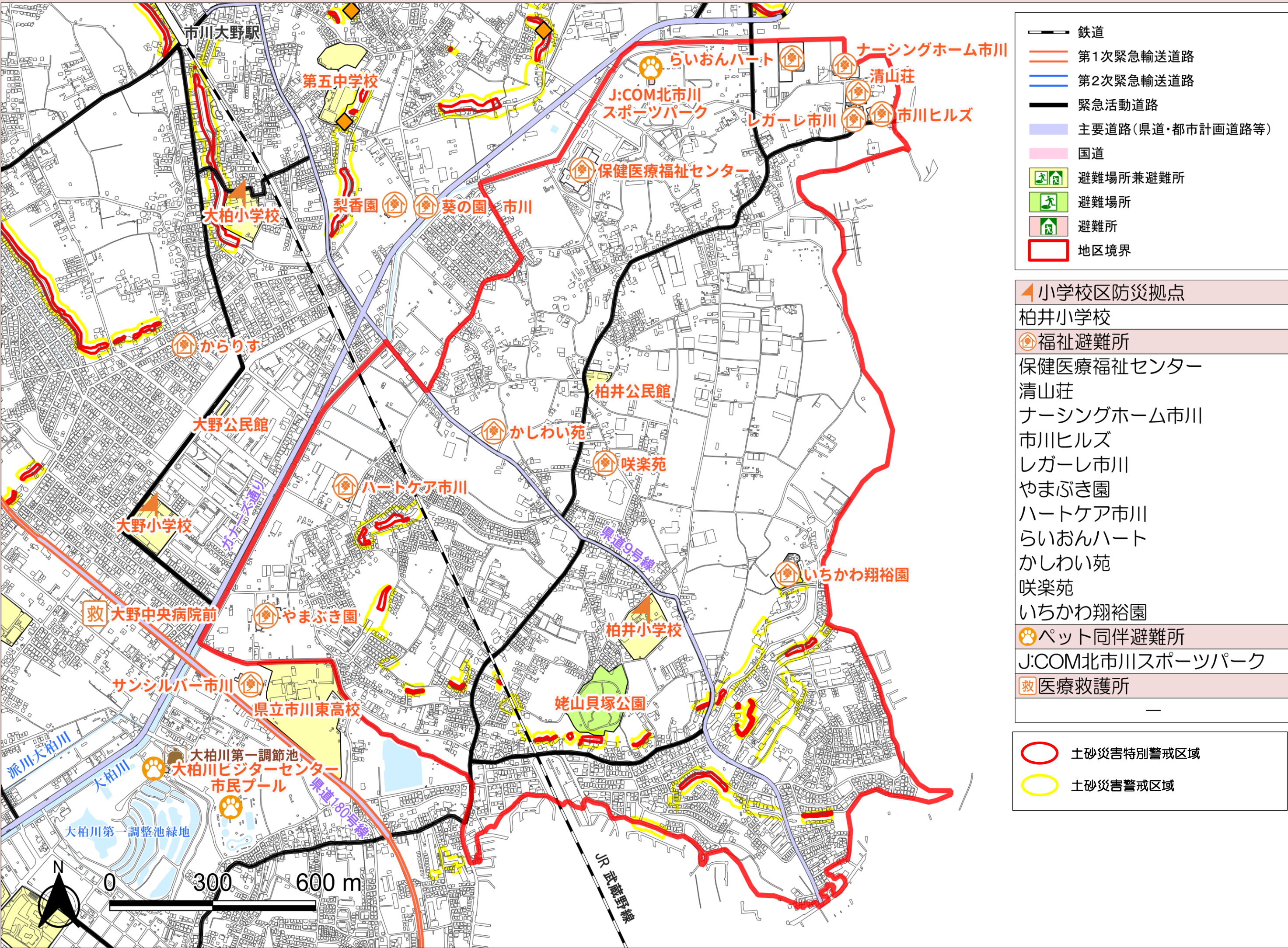
（７）防災上の課題

項目	課題
地震	地区の一部地域において、震度6強の揺れが予測され、土砂災害警戒区域等があり、過去には液状化による被害も発生していることから、耐震対策や土砂災害発生時の避難対策、家庭での備蓄対策等が必要です。
風水害	真間川から分岐する大柏川が流れていることから、低い土地は河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。また、土砂災害警戒区域等があることから、土砂災害発生に備えた避難対策が重要です。
まちの安全性	地区には、狭い道路が多いことから、緊急車両が通行可能な道路が重要です。また、消防水利の充足が低く消火までに時間を要することが考えられるため、初期消火の対策等が重要です。
地域の防災力	地区では、地域の防災力が比較的高い傾向を示しているものの、15歳以下の人口割合が低いため、未来の防災リーダーとなる人材の育成を進めていくことが重要です。

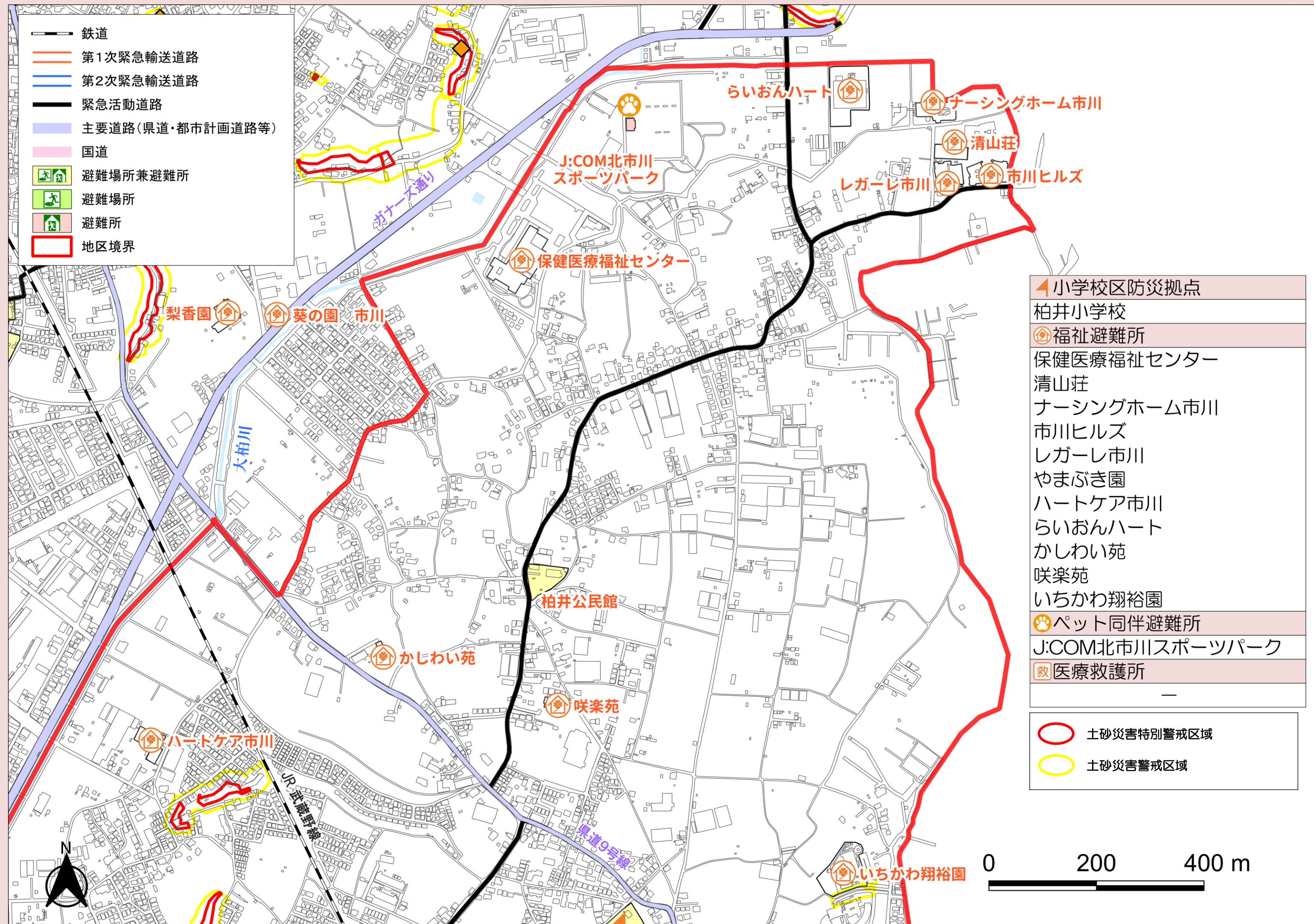
（８）防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路が多く、緊急車両が通行可能な道路の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止をしておくことが効果的です。 災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 市が開催する防災セミナーやイベント等に参加する等、地域ぐるみで防災リーダー等を育成していくことが必要です。 土砂災害の危険性も考えられることから、あらかじめ地域間で危険箇所等を共有しておくことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、家具の固定、ライフラインの途絶に備えあらかじめ飲料水等の備蓄をしておくなど自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 消防活動のしやすさが低いことから、住宅用消火器を設置する等、初期消火等の対策を行うことが重要です。また、住宅用火災警報器の設置を行う等、火災発生時の逃げ遅れ対策を行うことが重要です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。 避難経路の確保ができない可能性が考えられることから、まちあるき等を通して避難経路についてあらかじめ複数確認しておくことが必要です。

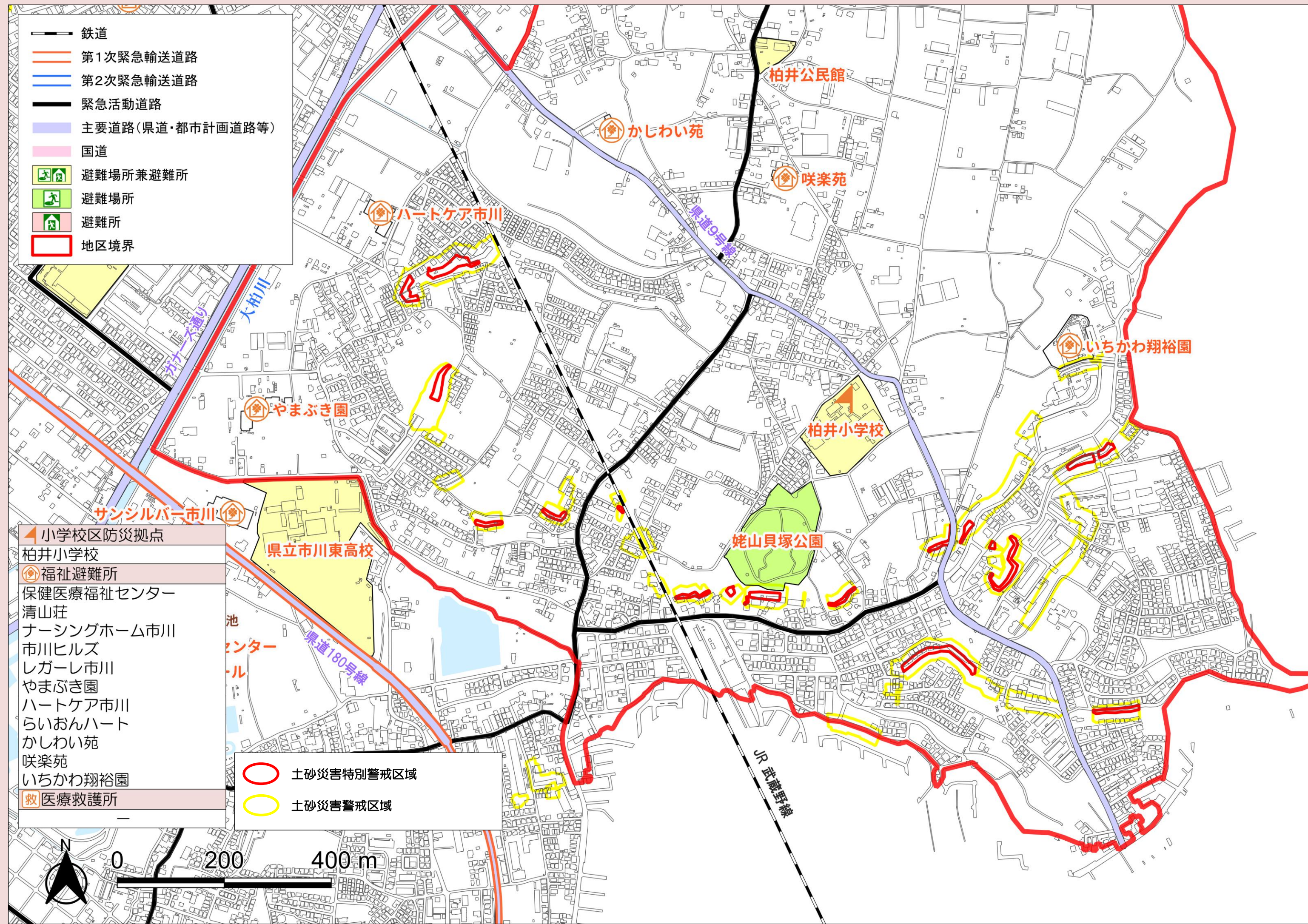
(9) 防災マップ



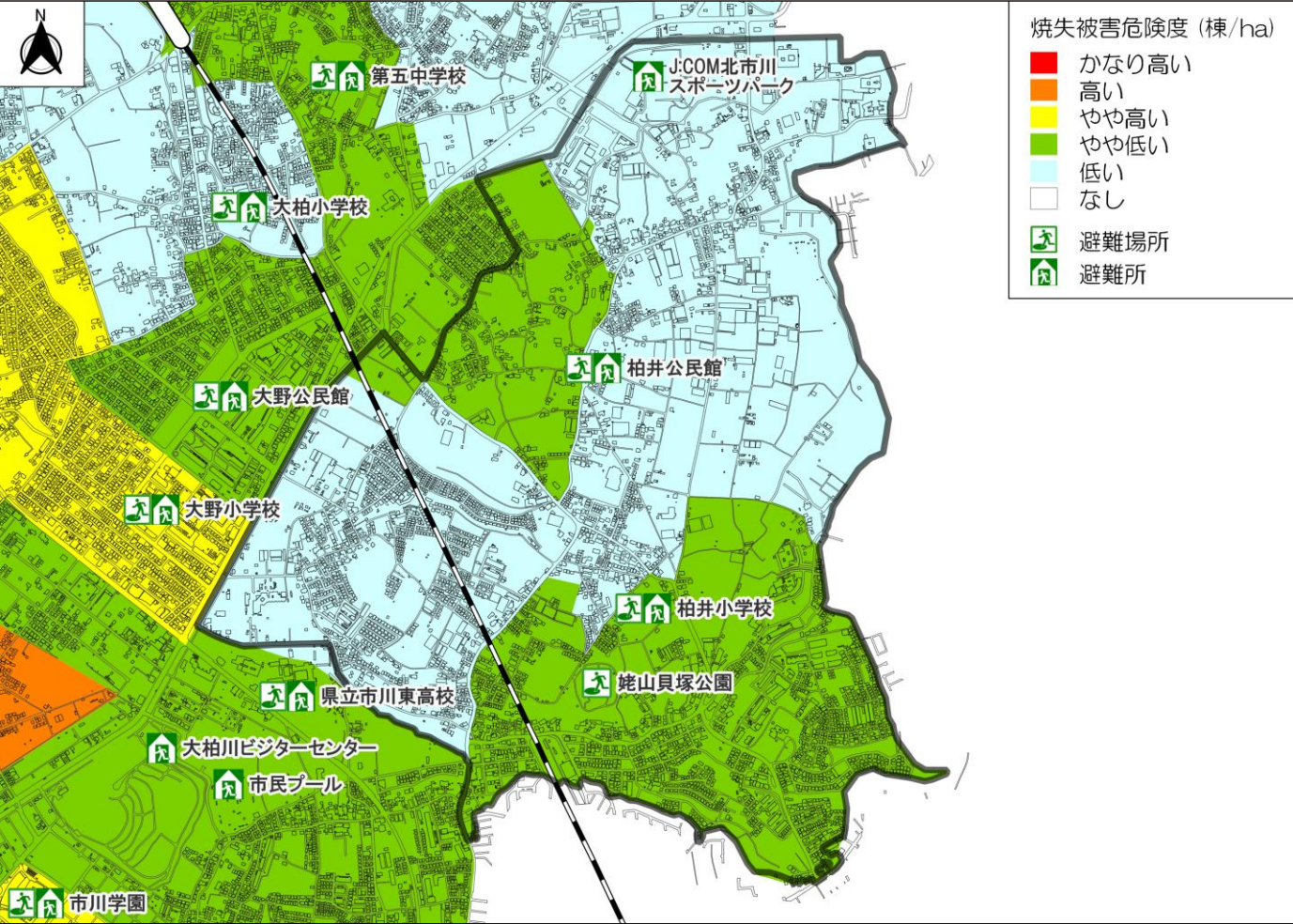
市川市防災カルテ < 柏井小学校区 >



(9) 防災マップ②

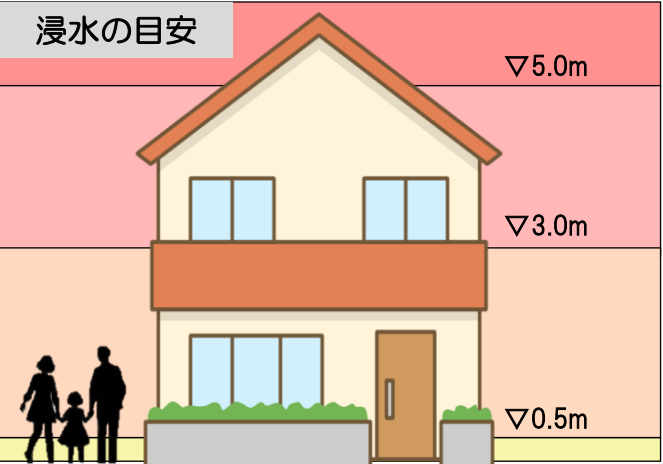
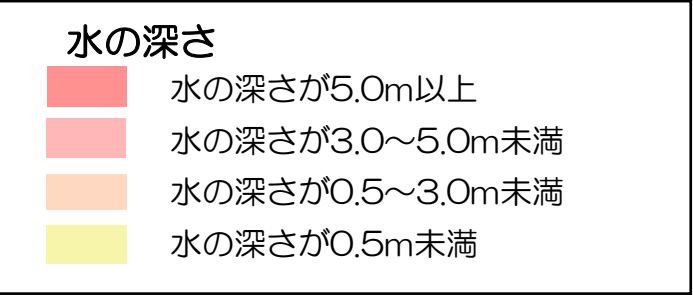


⑤建物被害（延焼による被害）



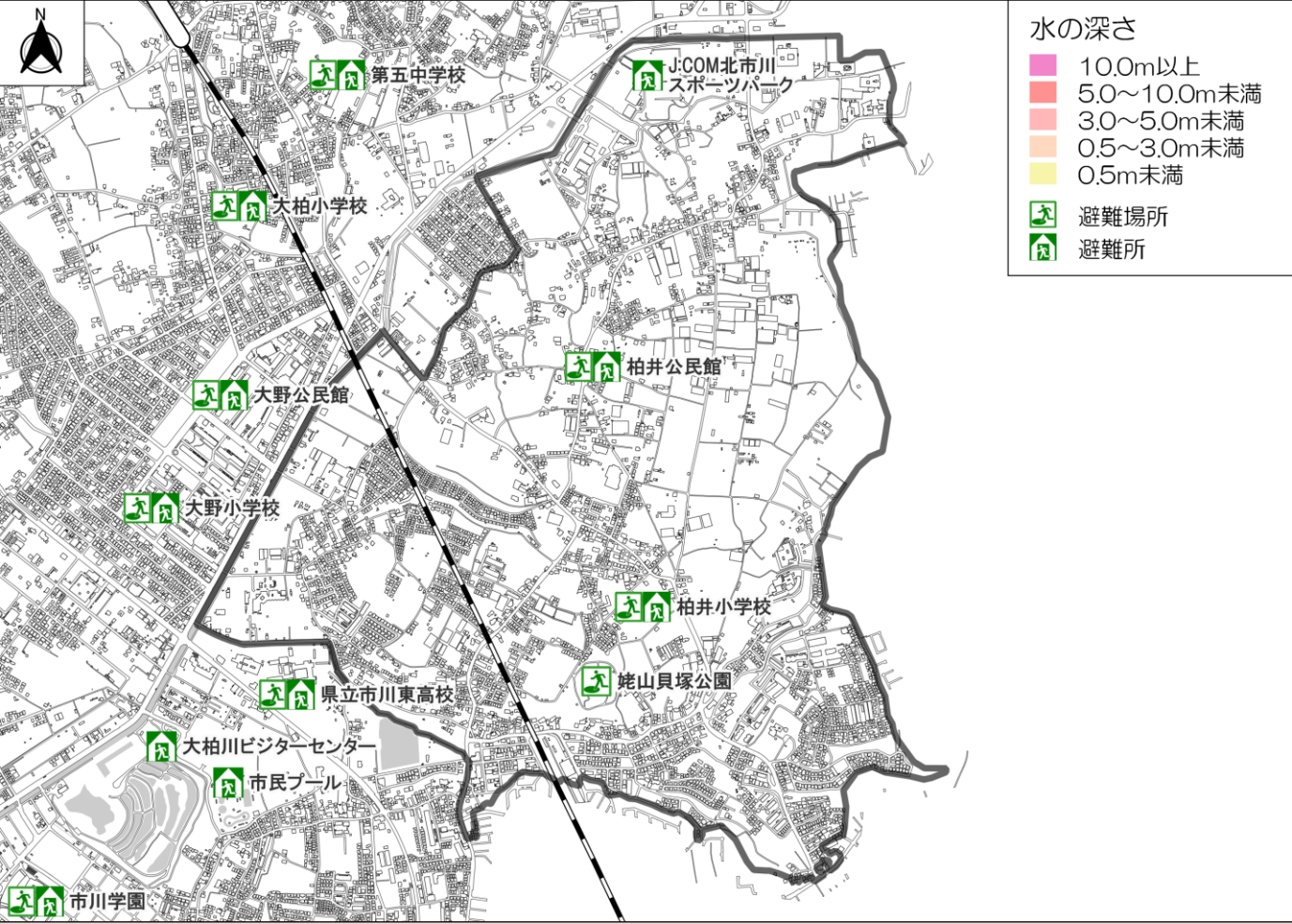
⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。
災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。
また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

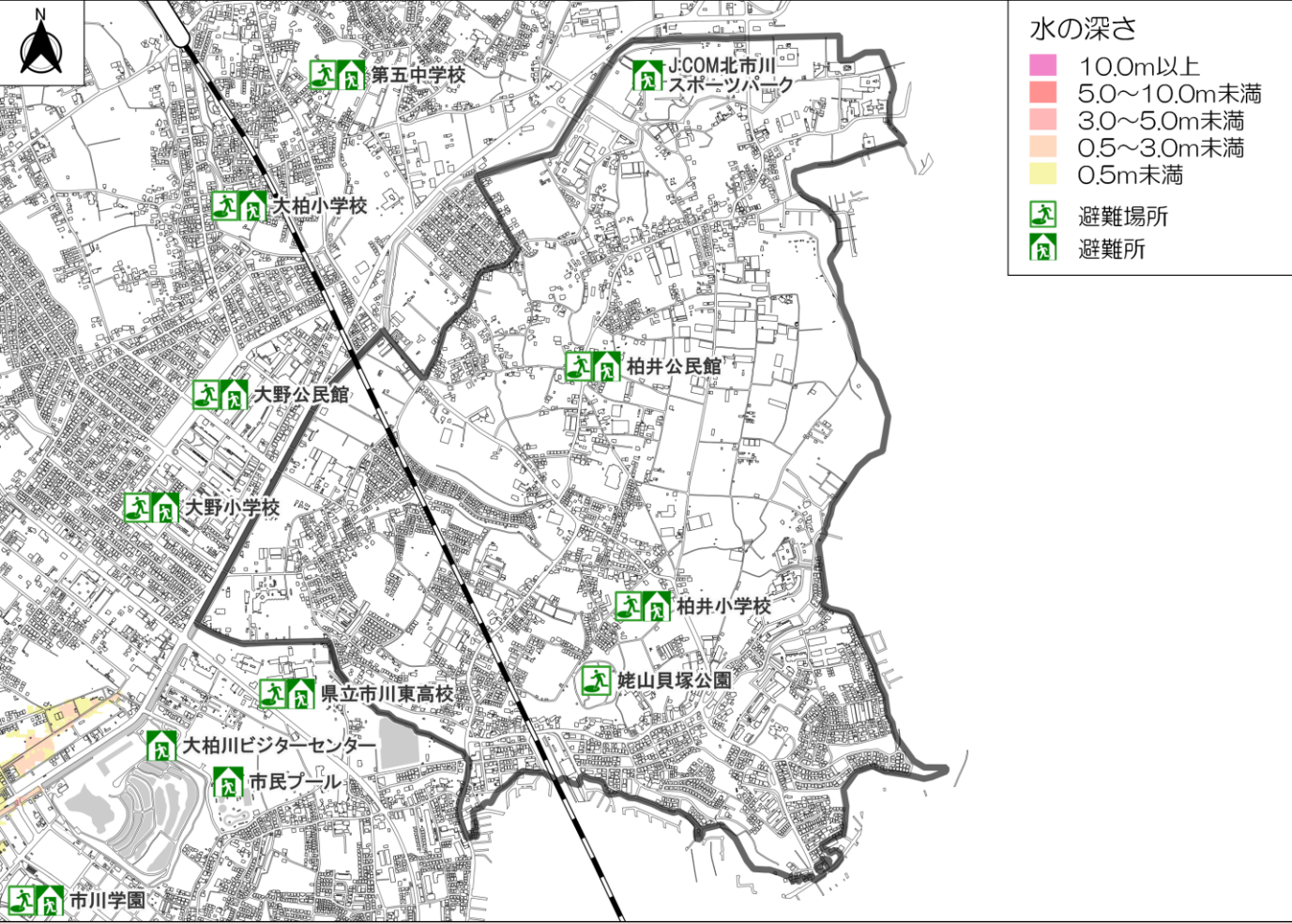
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



平成29年7月：国土交通省

